（別 紙）　　作成日 令和 4 年 7月 28日

自己評価及び外部評価票

【 事業所概要（事業所記入） 】

事業所番号	2092400015		
法人名	有限会社平成		
事業所名	グループホーム道		
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切161－52		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令 和 4 年 8 月 19 日

※事業所の基本情報は、長野県介護サービス情報公表システムで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2092400015-00&ServiceCd=320&Type=search

【 評価機関概要（評価機関記入） 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和4年5月31日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入） 】

・理念の下、輪・和・話を大切にし、明るく笑顔の絶えない家庭のような雰囲気作りに努めています。
・可能な限り利用者様一人ひとりの生活歴や趣味を活かし、利用者様のできることへ参加していただき、その人らしく生活できるように努めています。
・ターミナルケアに対応できるように、ご家族とかかりつけ医との円滑な連携に努めています。
・花や木等を飾り、温かみのある環境作りに心がけています。
・地域の皆様と一緒に生活できる居場所作りに努めています。

コロナ禍のため、地域との交流が中止になったり、参加ができなくなってきたりする中でも、文化祭に利用者
の作品を展示してもらったり、野菜を届けてくれた近所の方には礼状を出すだけではなく、年賀状や暑中見舞いを送ったりして、継続した関係づくりを行ってきている。また、家族との面会も制限されつつも、タブレットを使ったビデオ通話を活用したり、外出もままならない状況でもドライブに出かけたり、敷地内を散歩したりして、利用者の願いをできる限りかなえようとしている。
このようにして、コロナ禍だから利用者のためにできうることをしていこうという姿勢は、施設長をはじめ管理者やリーダー達の職員に対する信頼があってこそだと考える。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（ 東 ）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。（参考項目：23,24,25）	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の２/３くらいの
			③利用者の１/３くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に１回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
		○	③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,19）	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の２/３くらいと
			③家族の１/３くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,20）		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の２/３くらいが
			③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の２/３くらいが
			③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどできていない

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名（　　西　　）

	項　目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）		項　目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。（参考項目：23,24,25）		①ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,19）		①ほぼ全ての家族と
		○	②利用者の２/３くらいの			○	②家族の２/３くらいと
			③利用者の１/３くらいの				③家族の１/３くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。（参考項目：18,38）	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,20）		①ほぼ毎日のように
			②数日に１回程度ある				②数日に1回程度
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
			②利用者の２/３くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の１/３くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどいない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている。（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の２/３くらいが				②職員の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが				③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない				④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが				②利用者の２/３くらいが
		○	③利用者の１/３くらいが				③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない				④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の２/３くらいが				②家族等の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが				③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどいない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が				
			②利用者の２/３くらいが				
			③利用者の１/３くらいが				
			④ほとんどいない				

グループホーム　道　東
（別紙の２）

自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・グループホーム独自の理念を掲げ皆で共有している。 ・グループホーム内のあちこちに提示し、いつでも目に付くようにしている。	職員会の折には、全職員が声に出して理念を読み上げている。そして、「平らな道、急な道、狭い道、広い道、どんな道もあなたといっしょ」という合言葉を利用者と一緒に唱えている。職員は利用者がその人らしく自立できるように支援し、役立っているという誇りをもって実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域で行うどんど焼き、花祭り、文化祭などに参加し交流していたが、コロナ禍のため実行されていない。 ・地域の方が野菜などを届けてくださっている。	コロナ禍のため、地域との交流が中止になったり、制限したりしている中、できる範囲で参加している。文化祭には作品を展示してもらったり、花祭りには行ける利用者だけ参加したりして、地域との繋がりを継続していくために、年賀状や暑中見舞いなどや礼状などを必ず出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・コロナ禍のため、ボランティアの参加は中止になり、中学生との交流なども中止になったが、職場体験は行ってもらった。また、他施設の研修も中止になった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	・コロナ禍のため、運営推進会議を計画したが、会議は延期になったり、中止になったりしている。町の担当者とも連絡して、紙上での開催としている。	コロナ禍のため、なかなか計画通りにできていないが、３月には久しぶりに開催して、コロナ禍の中でのグループホームの実情と対応などを話し合ってきた	書類での話し合いでも、感想や意見を書いて返事をもらったりするなどして、話し合いが継続できるように工夫したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	・コロナ対策についての情報を電話や書類などで連絡していただいている。グループホームでも必要時に電話でいつでも対応できるようにしている。	町からコロナ対策として、不織布マスクやプラスチック手袋、予防服を配布してもらっている。また、補助金により空気清浄機を備えることができ、感染症予防に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束をしないことを前提とし、やむを得ず行う場合には必要最小限とする。また利用者様やご家族に説明し同意を得るようにしている。 ・玄関の施錠や行動制限はせず、研修などで再確認している。	職員会で「高齢者虐待防止の基本」など資料を基に、話し合いを行っている。また、朝・昼・夕方のミーティングで身体拘束や虐待防止について職員はお互いに絶えず留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	・職員会等での勉強会を通して虐待について理解できるように努めている。 ・言葉遣いや言葉の掛け方について留意するように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・職員会時に勉強会の機会を設け、利用者様の権利が保障されるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・入居契約時にご本人やご家族の希望や要望、不安などを言いやすい雰囲気の中で聞き、締結できるように努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・家族会はあるが、現在コロナ禍のため、開いていない。	毎月家族あてに担当職員が手紙を出したり、写真を送ったりして話しやすい関係作りをしている。コロナ禍のため面会が制限される中、タブレットを使ったビデオ通話を通して要望や意見を聞いている。家族会はあるが、現在開いていない。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・職員会や朝、昼、夕のミーティングや、職員個々と施設長との面談で、要望や意見を聞き、反映できるようにしている。	管理者とリーダーは、職員の提案や意見を大事にして、運営やケアの場面に反映できるように努めている。職員は居室担当や食材などの係分担して、それぞれの立場から話し合い、改善を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・朝、昼、夕のミーティングや職員個々と施設長との面談で、職場環境の向上に努めている。椅子を購入したり、自動水栓にしたりして環境を改善してきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・管理者やリーダーは必要に応じて、その場その場で指導を行っている。 ・職員会時には互いに力量を高め会うように勉強会の機会を設け、多くの職員が参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・これまで他のグループホームと交流し、サービス向上に努めていたが、コロナ禍のため、中止になっている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・事前面接を行って生活環境を理解し、ご本人やご家族から不安や要望を聞いて、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・ご家族との面談の時に不安や要望をしっかりと聞き、すべてを聞き入れる気持ちで話し合いをし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・事前面接を行ってご本人やご家族が必要としている支援を把握し、職員間で情報共有するとともに検討し、受け入れ準備を念入りに行い、サービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・日常生活をともに過ごす者同士の関係を認識し、人生の先輩として教えていただくこと、注意していただくことなどを受け止め、温かみのある生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・ご本人とご家族が絆を大切にし、電話やビデオ通話で話ができるよう配慮しながら、ご本人を支える関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・これまでご本人が大切にしてきた人や場所が継続するように利用者様から話を聞いている。また、再び訪問していただけるような雰囲気づくりに努めてきたが、コロナ禍のためできていない。	コロナ禍のため面会制限があり、これまで交流のあった友人や知人の訪問が少なくなってきている。その中でも、近所の方が野菜などを持ってきてくれるので、感謝の気持ちを示すため礼状などを送って、関係が継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者様同士の会話の場やレクリエーション、家事の手伝いをする時などに、一緒にできることを大事にして雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退所されても年賀状や暑中見舞いのやり取りをして、気楽に立ち寄っていただけるように心がけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・生活歴や情報提供を基にご本人の希望や課題、ご家族の希望や不安を伺い、ご利用者本位で検討している。	利用者の生活歴や情報提供書を基に、本人や家族から暮らし方の希望や意向を聞き取っている。そして、毎日の暮らし方や会話などをれぞれの「生活日誌」に記録して思いや意向について職員で共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・事前面接時やケアマネージャーからの情報提供書を参考に、これまでの利用者様の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・ふだんの生活の中で個人の有する能力を把握したり、現状の一日の過ごし方などを把握したりしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・基本的に1か月に1回のカンファレンスで問題や課題を話し合い、検討し、介護計画に反映できるようにしている。 ・ご家族や関係者に事前に意見を聞いている。	利用者一人ひとりの「ケアプラン実施状況及び評価」を継続して活用し、居室担当を中心にして各目標ごとに評価し、モニタリングを行い成果を挙げている。そして、ユニットごとに「ケース検討会議」を開き、課題を検討し、介護計画の見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の様子を個別の「生活日誌」に記録し、職員間で情報を共有して、そのつど話し合い、検討してご家族にも報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・利用者様とご家族の状況や意向に合わせ、病院の付き添いや送迎をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・十分に地域資源を把握しきれていないところもあるが、地域のいろいろなボランティアの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・かかりつけ医との関係を築き、ご本人やご家族の意向を第一に考え、納得を得てグループホーム内外で受診できるように支援している。 ・月１回の往診をしてもらっている。	毎月１回、かかりつけ医の往診があり、また、必要に応じて歯科医の往診を受けることができ、コロナ禍でも安心して見守ることができている。かかりつけ医と職場の看護師を通して、感染症対策を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・体調異変の利用者様については、看護師に指示を受け、かかりつけ医との連携の下、適切な受診や対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時にはお見舞いに伺い、ご本人が少しでも安心して療養できるように、地域連絡室と連携をとり、退院時にスムーズに移ることができるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入居時にご本人・ご家族の希望を聞き、職員間で情報を共有するようにしている。 ・ご家族がかかりつけ医と話し合ってもらい、その結果を元に連携して終末期の取り組みを行っている。	重度化した場合の指針を基に、家族との話し合いを重ね、対応を検討している。東ユニットは介護度が5の利用者が2人いる。また、車椅子利用3人、歩行器利用3人、歩行補助1人と支援を必要とする利用者がいる。それぞれのユニットごとに重度化した場合の対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・緊急時の対応は職員間で確認し、看護師から基本的な指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災避難訓練を全ての利用者様と職員で行っている。 ・運営推進会議に協力を依頼している。 ・2回のうち１回は通常訓練とは異なったユニット訓練や避難訓練の学習会を行っている。	３月にユニットごとに夜間の避難訓練を行った。また、１１月には消防署の指導の下、グループホーム全体で避難訓練を実施してきている。防災マップによると、山崩れの危険があるので、今後検討していきたい。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・一人ひとりの利用者様の尊厳について職員会などで話し合い、適切な言葉遣いや対応について検討している。	3月にユニットごとに夜間の避難訓練を行った。また、11月には消防署の指導の下、グループh-無全体で避難訓練を実施してきている。防災マップによると、山崩れの危険があるので、今後検討していきたい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・自己選択決定はその方の人権を守る一歩などを考え、自分で決定していただく言葉かけに留意している。 ・ご本人の希望の表出を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・ご本人のペースやリズムで生活できるよう利用者様本位の考え方を踏まえ対応している。 ・一人ひとりの希望や要望の把握に努め、沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・本人手持ちの衣類を季節ごとに入れ替え、相談しながら、おしゃれなどの要望を取り入れて楽しむように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・何を食べたいのかを利用者様と相談し、作り方を話し合い、できることをしていただいている。 ・時期の食物を使い、季節感を大切にしている。	食事はご飯、みそ汁、おかず3品を基本にして、時期のものを取り入れながら献立を考えている。また、利用者の状態を考慮して、東ユニットでは利用者2人がミキサー食やトロミ食にしている。四季の行事やお祝い事には利用者の希望を聞いて、特別な行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事には3食汁物が付き、午前・午後のお茶には好きな飲み物を準備している。 ・利用者様の摂取量を考え、代替品を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・食後に洗面所で口腔ケアを行い、入れ歯洗浄も行っている。 ・口腔内で異常があった場合には往診依頼している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・トイレでの排泄が基本であると考え、利用者様一人ひとりの排泄の間隔を把握し、声か掛けをして誘導している。	「生活チェック表」で食事、服薬、排泄をチェックしてこまめにトイレ誘導をしている。東ユニットではおむつを使っている利用者はいないがパットを当てている。紙パンツの使用を少なくするために「おしりピッタリパンツ」も使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・食事は野菜を多くし3食汁物をつけ、水分摂取に気をつけて、好きな物を飲んでいただいている。 ・好きな飲み物を把握して出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・利用さや様一人ひとりの体調や希望によって、ゆっくりと入浴していただくように支援している。	2日に1回程度、日にちを決めず入浴できるようにしている。東ユニットにリフト浴を備えているので、東ユニットの利用者は適時利用できる。リフト浴は職員1人介助ですみ負担が軽くなるので、好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・就寝は個々のペースに合わせている。 ・眠れない時はミルク等を飲んで、ゆっくり過ごす時間を持つようにしている。 ・快適な就寝のためにエアコンをつけ、湯たんぽも使用できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・職員は薬の処方を理解し、副作用について学んでいる。 ・薬は飲み忘れがないように手渡しして、飲み込みの確認をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・一人ひとりの嗜好品を把握し支援している。 ・一人ひとりの力を活かし、できることをなるべくやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・コロナ禍のためなかなか外出することはできなくなっている。天気の良い日はグループホームないの庭などで散歩するようにしている。	コロナ禍のため車でドライブに出かける回数が減ってきているが、なるべく出かけるようにしている。グループホームの周りは、広い敷地が広がっているので、天気の良い日には畑や花を見たりして散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現金を預かっている利用者はいない。 ・必要な時はご家族に連絡を取り、購入した物の代金を後日請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・ご本人が電話をかけたいと言えば利用していただいている。また、ご家族からの電話やタブレットでのビデオ通話によって、話していただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・共用空間は隅々まで清掃し、花を活けて季節感を感じ、気持ちよく過ごせるようにしている。 ・暑さや寒さ対策としてエアコンや床暖房を使い、快適に過ごせるように気をつけている。	玄関、廊下、リビングルーム、和室などに職員が生けた花が飾られていて、訪れた家族から好評を得ている。また、利用者のお花紙を丸めて作った作品やちぎり絵が飾られ、明るい雰囲気を作り出している。グループホーム全体に床暖があり、エアコンも備えてあり、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・テーブルや椅子の他にソファーを備え、利用者様が一人で憩うになれる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居時にご本人が使い慣れたベットやタンスを待ってきていただいている。 ・ご本人とご家族とで配置を決めていただいている。	居室にも職員が生けた卯の花が飾られ、気持ちの良い空間になっている。全室に床暖があり、エアコンも備えてあり、加湿器も備わっている。また、利用者によっては仏壇やポスター、写真が飾ってあり、個性が活かされた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・廊下やトイレ、浴槽には、安全のため手すりが設置している。 ・トイレや洗面所は居室近くに設置しているので、利用者様にはわかりやす、く自分で行くことができる。		

（別紙の2）

自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・道の理念をつくり上げている。 ・グループホーム内のあちこちに掲示し、いつでも目につくようにしている。	職員会の折には、全職員が声に出して理念を読み上げている。そして、「平らな道、急な道、狭い道、広い道、どんな道もあなたといっしょ」という合言葉を利用者と一緒に唱えている。職員は利用者がその人らしく自立できるように支援し、役立っているという誇りをもって実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・どんど焼き、花祭り、文化祭、福祉大会に利用者全員が参加していたが、コロナ禍のため一部参加となっている。 ・小中学生による資源回収に協力している。	コロナ禍のため、地域との交流が中止になったり、制限されたりしている中、できる範囲で参加している。文化祭には作品を展示してもらったり、花祭りには行ける利用者だけ参加したりして、地域との繋がりを継続していくために、年賀状や暑中見舞いなどや礼状などを必ず出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・コロナ禍のため、ボランティア参加は中止になり、中学生との交流などが中止になったが、職場体験は行ってもらった。また、他施設の研修も中止になった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	・コロナ禍のため、運営推進会議を計画したが、会議は延期になったり、中止になったりしている。町の担当者とも連絡して、紙上での開催としている。	コロナ禍のため、なかなか計画通りにできていないが、3月には久しぶりに開催して、コロナ禍の中でのグループホームの実情と対応などを話し合ってきた。	書類での話し合いでも、感想や意見を書いて返事をもらったりするなどして、話し合いが継続できるように工夫したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	・コロナ対策についての情報を電話や書類などで連絡していただいている。グループホームでも必要時に電話でいつでも対応できるようにしている。	町からコロナ対策として、不織布マスクやプラスチック手袋、予防服を配布してもらっている。また、補助金により空気清浄機を備えることができ、感染症予防に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・職員会時に、マニュアルを基に身体拘束について話し合っている。現在身体拘束の実例はない。	職員会で「高齢者虐待防止の基本」など資料を基に、話し合いを行っている。また、朝、昼、夕方のミーティングで身体拘束や虐待防止について話合い、職員はお互いに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	・職員会時に再確認し、防止に努めている。 ・利用者様と会話をする中で、言葉遣いや言葉かけの仕方等に注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・職員会時に勉強会を設け、知識を得る機会を作り、利用者様の権利が保障されるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・見学時や入居時に説明している。ご本人の希望や不安、ご家族の要望を聞き、理解して、納得していただいた上で契約を締結できるように努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・面会時や電話連絡の折に、意見や提案、要望等を聞いて運営に反映させている。	毎月家族あてに担当職員が手紙を出したり、写真を送ったりして話しやすい関係づくりをしている。コロナ禍のため面会が制限される中、タブレットを使ったビデオ通話を通して要望や意見を聞いている。家族会はあるが、現在開いていない。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・職員会や朝、昼、夕方のミーティングで提案や意見を聞き、運営に反映できるように努めている。	管理者とリーダーは、職員の提案や意見を大事にして、運営やケアの場面に反映できるように努めている。職員は居室担当や食材などの係分担をして、それぞれの立場から話し合い、改善を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・仕事にやりがいを得られるような職場の環境づくりに努めている。 ・笑顔で仕事ができるような雰囲気づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・職員会時には勉強会の機会を設け、多くの職員が参加できるように配慮している。 ・コロナ禍のため、職員一人ひとりにあった外部研修には参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・コロナ禍のため、これまでの同一法人のグループホームとの交流が中止になり、外部研修会での他のグループホームとの交流もなくなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・ご本人から希望や要望を聞き、安心して過ごせるように努めている。 ・ご本人との会話の中から気持ちを汲み取り、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居時にご家族より困っていることなどを話していただき、サービス提供に役立つように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・個々を尊重しその人らしく生活できるようにサービス提供に努めている。 ・希望を把握し、それに対して的確な支援を行うことができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・家事(食事、掃除、洗濯)等などご本人ができることに参加していただき、ともに暮らしていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・コロナ禍のため面会制限はあるが、タブレットを使用したビデオ通話でご家族との時間を大切にできるように努めている。 ・ご家族より電話があれば、ご本人と直接話していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・コロナ禍により面会制限があるため、友人や近所の方々に立ち寄っていただき、ゆっくりと過ごせるような状況ができていない。	コロナ禍のため面会制限あり、これまで交流のあった友人や知人の訪問が少なくなってきているその中でも、近所の方が野菜などを持ってきてくれるので、感謝の気持ちを示すため礼状などを送って、関係が継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者様一人ひとりを尊重し、穏やかな日々が過ごせるように、言葉かけや居場所づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・グループホームを退所しても、年賀状や暑中見舞いなどのやり取りをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人やご家族の希望を聞き、それを基に、初期の介護計画を作成している。また、ご本人の思いを優先に考えている。	利用者の生活歴や情報提供書を基に、本人や家族から暮らし方の希望や意向を聞き取っている。そして、毎日の暮らし方や会話などをれぞれの「生活日誌」に記録して思いや意向について検討し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ご本人やご家族から情報を得て、生活歴や馴染みの生活等を把握し、職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々の利用者様の状態変化を観察し、カンファレンスで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・日々の状態を把握し、ご本人やご家族の意向や要望を取り入れ、介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの「ケアプラン実施状況及び評価」を継続して活用し、居室担当を中心にして各目標ごとに評価し、モニタリングを行い成果を挙げている。そして、ユニットごとに「ケース検討会議」を開き、課題を検討し、介護計画の見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・介護計画に応じた見直しを行っている。 ・個別の「生活日誌」に記録を残すことで、問題点や情報を共有でき、介護計画の見直しがしやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・ご本人やご家族の要望や状況に合わせて、病院へ付き添ったり、送迎したりして対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・以前はボランティアや地域の方々の協力をいただいていたが、コロナ禍により難しい状況になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・かかりつけ医と連携を取りながら、ご本人やご家族の意向を聞いて支援している。 ・月１回往診してもらっているが、必要に応じて緊急の往診をお願いしすることもある。	毎月１回、かかりつけ医の往診があり、また、必要に応じて歯科医の往診も受けられ、コロナ禍でも安心して見守ることができている。かかりつけ医と職場の看護師を通して、感染症対策を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・体調不良時には職場の看護師がかかりつけ医と連絡を密に取って連携し対応できるようにしてしてる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には病院側に情報提供を行い、また、退院前には病院側とカンファレンスを行い、スムーズに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入居時にご本人やご家族の希望を聞き、職員で情報を共有している。 ・終末期には話し合いを重ねて行い、可能な限り意向に沿えるよう支援している。	重度化した場合の指針を基に、家族との話し合いを重ね、対応を検討している。特に、西ユニットは介護度が5の利用者が5人いる。また、車椅子利用6人、歩行器利用1人、杖利用1人と支援を必要とする利用者が多い。この2年間で2人の看取りを行ってきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・夜勤時などに急変した時に備えて、職場の看護師が職員の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・避難訓練を全職員で利用者様と行っている。 ・食料等を備蓄し、賞味期限を確認して入れ替えを行っている。	３月にユニットごとに夜間の避難訓練を行った。また、１１月には消防署の指導の下、グループホーム全体で避難訓練を実施してきている。防災マップによると、山崩れの危険があるので、今後検討していきたい。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・利用者様それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に留意している。	特に、排泄でトイレ誘導する時は、大声を出さずさりげなく言葉かけをしたり、幼児言葉を使わないように気をつけたりしている。このような些細なことでも利用者の人格をさげすんだりすることのなように、ていねいな言葉遣いに注意をはらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・ご本人の希望の表出を大切にし、実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・利用者様個々に合わせた起床時間や食事の好み等にできる限りの対応し、一人ひとりのペースでその方にあった生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・髭剃りや爪切り、カット等、入浴時には気を付けて、対応するようにしている。 ・その人らしく生活できるよう、ご本人の好みや季節等を考えて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食べたい物の聞き取りをし、希望に合った行事食を提供している。 ・食材の調理や後片付け等、できる範囲で職員と一緒に行っている。	食事はご飯、みそ汁、おかず3品を基本にして、時期のものを取り入れながら献立を考えている。また、利用者の状態を考慮して、西ユニットでは利用者1人がキザミ食にしている。四季の行事やお祝い事には利用者の希望を聞いて、特別な行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事量や水分量には注意し、食事制限のある方にはかかりつけ医と相談しながら提供している。 ・体調等を考慮して代替品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・自分でできる方は見守りながら、歯磨きをしていただいている。 ・夕食後は入れ歯洗浄剤を使用し、清潔に保持できるようにしている。 ・コロナ禍のため歯科による口腔ケアは中止している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・利用者様個々の排泄パターンを知り、その方に合った時間に声かけし、支援している。	「生活チェック表」で食事、服薬、排泄をチェックしてこまめにトイレ誘導をしている。西ユニットではおむつを使っている利用者が1人いるがほとんどの利用者はパットを当てている。紙パンツの使用を少なくするために「おしりピッタリパンツ」も使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分を多く摂取できるように、ジュースや飲みやすい物、牛乳等を飲んでいただき、利用者様個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・入浴への声かけをして、ご本人が望まなかった時には次の日へ変更するようにしている。 ・入浴する日を決めず、希望に合わせて入浴できるようにしている。	２日に1回程度、日にちを決めず入浴できるようにしている。東ユニットにリフト浴を備えているので、西ユニットの利用者は通うようにしている。リフト浴は職員１人介助ですみ負担が軽くなるので、好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・室温や掛け物で調整し、冬季は湯たんぽやエアコン、床暖房で暖かく休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・利用者様一人ひとりの薬手帳を確認し、服薬の支援を行っている。 ・副作用や症状の変化を見落とすことのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・家事をしていただくことで、日々の生活の張り合いになるように支援している。 ・今までの生活や趣味が継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・地域の情報を収集し、参加できそうな行事に参加していたが、コロナ禍のためできないことが多くあった。 ・希望に応じた外出は、コロナ禍のためできていない。	コロナ禍のため車でドライブに出かける回数が減ってきているが、なるべく出かけるようにしている。グループホームの周りは、広い敷地が広がっているので、天気の良い日には畑や花を見たりして散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金を預かっている利用者様はいない。 ・お金を使うときには必要に応じて、ご家族と連絡を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話があればご本人と話ができるようにしている。また、タブレットを使ったビデオ通話でも対応している。 ・年賀状のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・生活感や季節感を感じられるように飾り付けを職員と一緒に行っている。 ・共用空間は居心地の良い空間となるように気配りしている。	玄関、廊下、リビングルーム、和室などに職員が生けた花が飾られていて、訪れた家族から好評を得ている。また、利用者のお花紙を丸めて作った作品やちぎり絵が飾られ、明るい雰囲気を作り出している。グループホーム全体に床暖があり、エアコンも備えてあり、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・和室やソファーを利用しながら休憩できるように居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居時には自宅で使い慣れた家具や飾りを持って来ていただき、自宅に近い居室づくりに努めている。	居室にも職員が生けた卯の花が飾られ、気持ちの良い空間になっている。全室に床暖があり、エアコンも備えてあり、加湿器も備わっている。また、利用者によっては仏壇やポスター、写真が飾ってあり、個性が活かされた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・カレンダーを活用したり、表札をかけたりして、自立した生活が送れるよう見守り、声かけをしている。		